

## 編集後記

二〇一二年度は、名古屋キャンパスが始動し、豊橋キャンパスがリニューアルされた年度として、愛知大学の各所で新しい試みが模索された。喧噪の年度も後半を迎え、一定の落ち着きをみせつつあるが、変革の熱気を失わぬよう、活気ある活動を継続していきたいものである。

文学会では、十一月一日には落語家の三遊亭楽麻呂氏をお招きし、公開講演会を開催した。江戸落語の解説を聞きつつ、実際の落語も堪能できる贅沢な企画となった。さらに、十二月二〇日には、今年、愛知大学を退職される交野正芳教授による「時代思潮と社会学に拠つてのわたくしの関与」と題した公開講演会が開かれた。たんなる社会学の講義にとどまらず、交野教授が愛知大学で勤務をされた長い年月の潮流の変遷と、それぞれの時代と格闘した同教授の思想的な営みが垣間見られる貴重な講演であった。

さらに、十一月一日には近藤正臣氏「名古屋ライトハウスの歴史」、十二月一〇日には小林芳樹氏「普通精神病について」と題するワークショップが開催された。二月一日には文学部メディア芸術専攻開設を記念して、木藤歩氏・山田晋平氏による「光と影とイメージによる舞台デザイン」と題するワークショップが開かれた。

こうして、文学会では年度の後半にかけて、活発な研究・

講演活動が行われた。それに加えて、ようやく文学会の『文学論叢』一四七輯もまた無事発刊の運びとなった。今年の冬は例年になく寒さであったが、文学会の活動は春の到来を前に芽吹きの時を迎えている。(A)

平成二十五年三月一日 印刷  
平成二十五年三月二十日 発行

編者 愛知大学文学会  
代表者 伊東利勝

印刷所 豊橋市小池町 東邦印刷工業所

発行所 豊橋市町畑町 愛知大学文学会